

# 「自己の学びを調整しながら、他者と共に高め合う子」の育成

令和4年度 研究イメージ

2022年5月13日

自らの学びを進める力  
(自己調整力&実感を  
伴った学び)を!!

## 視点1：子どもが問いを もって学ぶための手だて

### 1. 全体の問いを生む一手

「解決したい!」「なりたい!」と思えるゴール  
や活動が設定された、単元の計画を立てる。単元  
の中に、子どもの思考に沿って全体の問いを共有で  
きる場を意図的に設定する。

(例)・前時や既習・生活経験とのズレに気付く  
・資料との違いに注目する など

### 2. 全体の問いに対しての個の考えを深める一手

全体の問いに対しての個の考えを深めたり、新た  
な問いへのきっかけにしたりする場を設定する。

(例) 切り返し、焦点化、ゆさぶり、  
新たな資料・情報の提示 など

※一手(教師の言葉がけや用意した資料など)は、子どもたちが自ら問いをもって学び進められてい  
る状況であれば、『(用意はするが)必ずしも登場するとは限らない』、というおさえます。

## 気付きの高まり

「あれ?」

「もしかして…」

「何のために」  
教師の意図を  
明確に

## 視点2：子どもが学びを 実感するための手だて



### 1. 他者とのかかわりを深める場の工夫

協働的な学習活動となるよう、子どもたちが関わり  
の中でどんなことを学ぶ(気付く・深まる・広がる)  
のか、意図を明確にした場の工夫を行う。

(例) 前時の資料を持ち寄り、よりよい課題解決のた  
めに考えの異なる子とペア交流を行う など

### 2. 自分ののびをたしかめる振り返りの工夫

ノートの記述、発表、動作化、適用問題などを通じ  
本時の理解や進捗・達成状況  
を子どもが実感できる工夫を  
行う。



## メタ認知能力の高まり

「もっと～できそう!～したい!」